

オモ二主日
説教

あなたの父母を敬え

<出エジプト記20:12>



金 ハンナ 牧師 (大宮教会)

日本では母の日と父の日が別々存在しますが、韓国は父と母と一緒に父母の日として祝います。ですので、私は父母の日のつもりでメッセージをしたいと思います。

これをお読みになる皆さんの中に、私は本当に親孝行をしましたと、自信持って声を大きくして言える方がいらっしゃいますか。いないでしょう。人間は生まれて死ぬまでに、いろいろなことを知るようになりますが、学習によるものもあれば、経験によるものもあります。親に対する感謝とありがたみの心は、学習によって知るものではないような気がします。これは、人生の中から感じ取る経験でわかることでしょうか。私たちは出生という神秘の中に生まれます。父母を選択する権利はなく、ある日自我という主体を感じて生き始めます。そしてまさに親のおかげでこの世に投げられます。そのめぐみに感謝すべきだと説教しなければなりませんし、実にこれは使命です。でも申し訳ないことですが、私にとって恥ずかしいほどこの説教は難しいです。しかしこれは神様の命令のみことばですし、伝えなければならないメッセージなので、今日は勇気を出しました。

人々の家庭の中には、様々な切ない事情があります。あたかも小説の中やドラマの中に出てきそうな胸の奥が痛む、悲しい、切ない、痛々しい人々が実際にいます。誰もが事情を抱えています。家庭というはじめての社会の中で人間は成長し、また劣等感を感じ始めます。その比較の対象が親ではないでしょうか。

皆さんのご両親はどんな方ですか。優しい、温かい、厳格、怖い、偉い、金持ち、貧乏、様々です。また、親がいるかどうかかわからないような方もいるでしょう。今日のみことばで神様は私たちに命じます。あなたの父母を敬え、これが約束のあるはじめての掟です。何の約束ですか。私たちがこの世で長寿できる祝福です。旧約聖書の本文出エジプト記20章には十戒が出てきます。あなたの父母を敬え。そうすればあなたの神、主が与えられる土地に長く生きることが出来る。神様が与えられたこの土地で長寿する祝福があるというのが、十戒の第5です。十戒ですが、1から4までは神様と人間との関係性に対して守るべき掟です。それにつながる掟がこの5であって、6からは人間と人間との関係性に対する掟です。神様は私

ち人間が守って生きるべき律法の中に、最も大きい掟をあなたを生んでくれた父母を尊敬することだと言われます。即ちこの父母を敬うことから、神様と人間との正しい関係を維持し、また以後人間と人間との関係が正しく成立出来ると、教えておられるのです。十戒の1から4、6から10のその真ん中に、この掟が存在するのは、まさにこの深く大きい意味が含まれています。私たちが神様の恵みを、親の恵みを通して学び、その親の恵みを土台に、人間と人間の間を維持していけば、どんな関係も円満に維持できるようになるでしょう。「人が変えようとも変えられないことが一つある。それは親だ。」タルムードに出てくる言葉です。この世に生れたということ自体が不動の現実であり、その中父母を選択できないというこの命題の前に、私たちの生が与えられたとするならば、もうこれ以上この事実を恨んだり、悩んだりしてはなりません。変わらない事実のため悩むのは時間の無駄です。与えられたこと、変わらないこと、変えられないことはそのまま受け入れ順応するのが賢明です。もし皆さんの中にこのことで思い悩む人がいればもうやめた方がいいです。

神様は私たちの一人一人の出生から死まで全てを知っておられる方です。その方の考えと心とみ計らいを人間は理解できません。理解しようとどんなに努めても理解できません。その方は神様だからです。

私に与えられた親、何故こんな人が親なのか。悩むのは一時で十分です。今はそれをそのまま順応し、受け入れ、その中に含まれた意義を見つけるべきです。そして、そこに込められた重要なメッセージを取出さねばなりません。それは私たちがいい親になることです。自分の子供に尊敬される親になるため信仰を土台に努めて生きることです。自分の父母を恨んで憎んでいたとすれば、自分はそのような親になることはありません。親になることは簡単でも親らしい親になるのは難しいことです。ぜひ自分の父母を心の深い所から敬ってください。また自分は本当に到底親を尊敬出来ないという方は、それなら、はたして自分は自分の子供たちにとってどんな親なのかを自ら訊ねてみてください。あなたの父母を敬え、このみことばを私達の生の中で実践していく時、この土地で長く生きる祝福が与えられるでしょう。

在日コリアン文化の創造と多文化共生社会を目指して、在日本韓国YMCAは皆様と共に歩みます。



東京◆ホテル：東京で一番安く便利な宿泊研修施設。フロントは日・韓・英語に対応、24時間営業。

10名様～200名様のお会議及び宿泊研修(50名)も可能。

◆スペースYホール：200席の多目的ホール。セミナー・コンサートなどに対応。

◆韓国文化教室(チャンゴ・カヤグム・舞踊) ◆韓国語講座

◆YMCA東京日本語学校(3ヶ月～2年、短期研修)

関西◆にほんご教室(新規開講・募集中) ◆韓国民俗芸術科(舞踊・チャンゴ)

税込	平日	休日
シングル	¥6,700	¥6,200
ツイン	¥10,500	¥9,800
トリプル	¥13,500	¥12,600
※朝食¥200(宿泊者価格)		

在日本韓国YMCA <http://www.ymcajapan.org/ayc/jp/> *会員及び教職者割引有。詳しくはお問い合わせください。

東京韓国YMCAアジア青少年センター 〒101-0064 東京都千代田区猿樂町2-5-5 ☎03-3233-0611

関西韓国YMCAアジア青少年センター 〒537-0025 大阪市東成区中道3-14-15 ☎06-6981-0782

マイノリティー宣教センター 開所礼拝を開催



マイノリティー宣教センター 開所礼拝
2017年4月8日(土) 日本キリスト教会館

4月8日(土)午前11時より、東京西早稲田の日本キリスト教会館6階会議室で、マイノリティー宣教センターの開所礼拝がおこなわれた。礼拝には、在日大韓基督教会関東地方会の役員をはじめ、在日大韓基督教会とともにセンター設立の準備に携わってきた日本の諸教団・教派・団体の方々約50名が集った。

マイノリティー宣教センターの誕生の種は、ヘイト・スピーチが野放しのまま拡散し続けていた2014年、神さまの御手によって蒔かれた。世界教会協議会(WCC)をはじめ、カナダ、アメリカ、ドイツ、台湾、そしてもちろん韓国、日本の諸教会、諸団体の賛同を得ながら、排斥主義に抗う神の子の連なりが、2015年の秋、「マイノリティー問題と宣教」国際会議という形で結実し、その実りを糧に、1年半の準備期間のなかでさらに練られたネットワークを軸に、センターは出帆することとなった。

開所礼拝では、クロアチア、ベトナム、アルゼンチン、インド、オーストラリアなどの地で小さくされた人びとのために編まれた祈りと在日大韓基督教会の青年たちが書いた祈り

をもって連祷した。そして、金性済総会長が、マルコによる福音書4章35-41節をもとに「向こう岸に渡ろう」という題でメッセージを伝えた。金総会長は、センターの設立の経緯を丁寧に振り返られた後、嵐のような状況を前にひるまない人はいないだろうけれども、向こう岸で先回りして待っておられる主が呼んでいらっしゃる、その場所に向かって手を携えてともに進もうと力強く語りかけた。深いメッセージを受ける形で、郭正勲さん(川崎教会)が映像とラップを合成した応答をし、また、日本基督教団の道家紀一先生が、センターへの励ましの言葉を述べた。

礼拝後は、東京中央教会の信徒の方々が準備した、心のこもった食事をともに分かち合う時をもった。愛餐の後、日本の諸教団、諸団体が構成される第一回目の理事会が開かれ、理事長に金性済総会長、副理事長に吉高叶さん(日本バプテスト連盟)、財政理事に道家紀一さん(日本基督教団)、書記理事に網中彰子さん(日本キリスト教協議会)が選ばれた。

今後、カナダ長老教会が派遣したデイビット・マッキントッシュ宣教師と在日大韓基督教会の金迅野牧師が共同主事として、センターのさまざまな活動を展開していくことになる。厳しい状況の中で、しかし、主に導かれ、エッサイの切り株から出た芽のように、主が待っておられる場所に向かって、センターはいま小さい一歩を歩みだした。

排外主義の暴力に抗いながら、在日コリアン、アイヌ、沖縄、障がい者、女性をはじめとする、すべてのマイノリティーにとっての居場所となるべく、「共生の天幕を広げよう」というスローガンのもと、マイノリティー宣教センターの出発を、わたしたちが祈りとともに支えよう。



(総幹事 金柄鎭)

共同主事の金迅野牧師とデイビット・マッキントッシュ宣教師

関東女性会

第65回定期大会を開催 新会長に朴英遠長老(品川)選出



関東地方教会女性連合会第65回定期大会が、3月20日西新井教会で行われた。第一部の礼拝では、西新井教会に新しく赴任した金容昭牧師が「新しい出発」という題で説教をした。第二部の会議では、活動報告および活動計画案が提案された。新役員は以下である。

- ・会長：朴英遠(品川教会) ・副会長：金恵珍(川崎教会)
- ・書記：金頭貞(川崎教会) ・副書記：李銀珠(横浜教会)
- ・会計：繁田季子(西新井教会) ・副会計：張黎明(東京教会)

(報告：金頭貞)



中部女性会

第57回定期大会を開催 新会長に宋福姫勸士(名古屋)選出



中部地方教会女性連合会の第57回定期大会が4月6日(木)に名古屋教会で行なわれた(総：33名)。開会礼拝では、全国教会女性連合会の総務である石橋まりえ伝道師の「何をささげますか」という説教の後、新井由貴牧師の司式により聖餐式が行われた。

昼食の後、議事に入り、報告、役員改選、献議案の検討などが行われた。

新役員は以下である。

- ・会長：宋福姫(名古屋教会) ・副会長：金珍明(長野教会)
- ・書記：金美環(岐阜教会) ・副書記：申淑姫(名古屋教会)
- ・会計：金恩淑(豊橋教会) ・副会計：尹惠丁(名古屋教会)

(報告：李正子)



関西女性会

第64回定期大会を開催 新会長に金錦順長老(布施)選出



2017年3月23日(木)大阪教会に於いて関西地方教会女性連合会第64回定期大会が、12教会50名の代議員が出席し開催された。

開会礼拝は鄭然元牧師(大阪教会)より「時代を見分けることのできる女性」(ルカによる福音書21:29~33)という題目

で説教がなされた。

議事は、各種報告、役員改選、予算案承認などで進行された。新役員は以下である。

- ・会長：金錦順(布施教会)・副会長：趙和子(京都教会)
 - ・書記：高慶美(大阪教会)・副書記：全早苗(大阪北部教会)
 - ・会計：金玉珍(大阪教会)・副会計：白野聖香(和歌山第一教会)
- (報告：全早苗)



西部女性会

第32回定期大会を開催 新会長に崔美恵子勸士(武庫川)選出



西部地方教会女性連合会第32回定期大会が4月4日(火)午前11時より神戸教会において代議員16名の出席で開催された。

開会礼拝は韓世一牧師(神戸教会)による「感謝の源」(詩100:1~5)と題してのメッセージがあった。

議事には会計の決算報告や会則改正案審議があった後、役員改選、2017年度予算案の承認、活動方針案などが討議された。

改選された新役員は以下である。

- ・会長：崔美恵子(武庫川教会)・副会長：朴英子(神戸教会)
 - ・書記：尹豊子(神戸教会)・副書記：大山京子(川西教会)
 - ・会計：梁律子(神戸教会)・副会計：李華順(岡山教会)
- (報告：尹豊子)



西南女性会

第63回定期大会を開催 会長は韓榮蘭勸士(福岡)が再任



2017年4月22日(土)在日大韓基督教会福岡中央教会において、西南地方教会女性連合会の第63回定期大会が開催された。

開会礼拝では、福岡教会の金仁果牧師が「霊的礼拝のために」という題目で説教し、各部報告、各教会報告、会計、監査の報告を終え、役員改選が行われた。

新役員は役員は以下の通り。

- ・会長：韓榮蘭(福岡)・副会長：李亜紀子(宇部)
 - ・書記：李好子(小倉)・副書記：韓京我(福岡)
 - ・会計：崔聖実(小倉)・副会計：金瑪璃(福岡中央)
- (報告：李好子)



関東地方会

ハンサラン教会 長老将立式挙行 名誉長老、名誉勸士推戴式も同時に



ハンサラン教会では4月16日復活主日の午後、金侖昊長老の将立式と朴大林名誉長老、朴慶子名誉勸士推戴式が挙行された。

関東地方会会長兼当教会の堂会長である金根湜牧師の司会と司式によって行われた礼式には、張慶泰牧師(聖民教会)の「価値を知る者」(創25:27~34)との説教があり、その後金侖昊長老将立誓約、按手、宣布が出された。勸勉は金秉喆牧師(聖山キリスト教会)、祝辞は呉永錫長老(東京希望キリスト教会)、祝祷は金君植名誉牧師がされた。

この度将立された金侖昊長老は、1966年韓国で生まれ、2004年から執事、按手執事としてハンサラン教会に仕えた。

また、名誉長老として推戴された朴大林長老は、2007年に長老として将立され10年間奉仕をし、朴慶子名誉勸士は18年間勸士として仕えた。

横浜教会

沈順岳長老が召天 教会や保育園で永らく継続して奉仕



去る4月4日、横浜教会の沈順岳隠退長老が天に召された。

故・沈順岳長老は1931年韓国で生まれ、1971年から横浜教会の執事、按手執事、勸士を勤め、2002年長老として将立された。

長年間横浜教会や打越保育園で奉仕した。

神学考試委員会開催 第54回定期総会の標語を制定

4月18日、KCC会館において神学考試委員会(委員長:金武士)が開かれ、加入宣教師に対する考試を行い、基督教大韓聖潔教会から派遣され、中部地方会の豊田めぐみ教会に赴任予定の李珍容牧師、基督教大韓監理会から派遣され、西部地方会の三次教会に赴任予定の李相徳牧師がそれぞれ合格した。

また、今年の10月8日(主日)～10日(火)、神戸東部教会で開催される第54回定期総会の標語を「福音をたずさえ、世いのちと平和を」(ヨハネ20:21)と制定した。

第4回常任委員会開催 マイノリティ宣教センターは加盟機関に

2017年4月17日(月)、大阪KCCにて第4回常任委員会が22名の会員、2名の特別委員長が参席し、報告や議案審議が行われた。特に会議中には、カナダ長老教会(PCC)から宣教師として派遣され、1963年から15年間活動されたグレン・デイス(Glen Davis)牧師一行を迎えて挨拶をする時間も持った。主な決定事項は以下のものである。

- ①空席の教育委員長に同教育委員会の書記であった崔和植牧師を委員長として承認。
- ②中部地方会からの要請、地方会所属2教会の宣教負担金の減免要請は、中部地方会に差し戻した。
- ③大韓イエス教長老会(高神)総会との「宣教協約締結」の件は承認し、第54回定期総会上程、締結することにした。
- ④4月8日に開所した「マイノリティ宣教センター」は、KCCJ総会の直轄傘下機関ではなく、加盟機関であることを確認して承認。
- ⑤カナダ長老教会から信徒宣教師として派遣されたデイビッド・マッキントッシュ(David McIntosh)氏は総会宣教師として受け入れ、マイノリティ宣教センターの共同主事として勤める事を確認して承認。
- ⑥機構改革準備委員会が提案した3つの項目を、各地方会での公聴会などで意見を聴取し、次回の常任委員会で再確認

その他、以下の重要議題を討議した。

- (1) 次回の宣教師・牧師・伝道師考試の日程を2017年9月25日(月)10時、神戸東部教会で実施する。
- (2) 宣教師・牧師・伝道師考試の応募書類に、世帯全員・転出者を含む住民票(韓国では家族関係証明書)など、家族関係が明記された書類を、次の考試から求めることが決議された。
- (3) 各地方会で行っている「長老教育」と「長老考試」に一貫性がないため、統一教案と統一問題集作りに取り込むことにした。
- (4) 牧師再教育制度を定期総会上程するため、その草案を作って次回の委員会で討議することにした。
- (5) 異端注意パンフレットを韓国の印刷所に依頼したので、出来上がったら全国教会に発送することにした。

してから第54回定期総会上程することにした。

- ⑦社会委員会が「熊本大震災救援活動」のために全国教会に募金協力要請を承認。
- ⑧西南KCCの理事承認要請を第54回定期総会上程することを承認。
- ⑨次回の常任委員会は2017年9月26日(火)、神戸東部教会で行う。

〈お知らせ〉

盤石教会の曹泳石牧師が下記住所に移転しました。
〒107-0061 東京都港区北青山1-6-4-802

2017年全国長老研修会案内

全国長老会では、「2017年全国長老研修会」を下記のように開催します。

日 時：2017年7月16日(主)～17日(月・祝日)
場 所：ホテル・クライトン新大阪
〒532-0011 大阪市淀川区西中島2-13-32
Tel 06-6885-1211

主 題：「KCCJに必要な機構改革とは何か？」

申込締切：2017年6月2日(金)

連絡先：書記 朱京中

全国長老会会長 尹聖哲

コラム

グレン・デイス牧師(宣教師)訪日と思い出

崔 正 剛(博多教会名誉牧師)

1939年生まれ、グレン・デイス牧師先生がカナダから、久しぶりに福岡を訪問された。先生は1963年に初めて来日されたが、きっかけは故・金徳成牧師が、カナダのモントリオール神学校に留学した時の出会いによる。来日当時は、東京の長沼日本語学校に通いながら、在日大韓調布教会に通い、在日大韓教会の各地の教会を訪問された。また、その頃ソウルで韓国語の勉強をしていた、故・マッキントッシュ宣教師に出会い、1965年6月から韓国の延世大学の語学堂で韓国語の勉強を9ヶ月間された。

その後福岡へ派遣され、福岡では地方会の牧師として、下関教会での夜学の手伝い、佐世保伝道所の手伝い、青年会の指導、無牧教会の手伝い等をした。その後、1973年に福岡教会に正式に委任された。だが、西南地方会長に選ばれたにもかかわらず、会長職に就けなかった事は残念な出来事であった。

1978年にカナダに帰国し、トロントでカナダ長老教会の総会で海外宣教総務、総会書記、1991年から総務として6年間勤務され、また総会長も歴任されてから2003年隠退された。

その後はバンクーバー神学校・メギール神学校において後輩

の指導をされ、現在はモントリオール神学校でボランティアの奉仕をされている。

今回、韓国の神学校訪問のため、モントリオール神学校校長に同行され、韓国で主日に韓国語で説教をされた。帰路日本に立ち寄られ、東京の総会とマイノリティセンターを訪問、日本基督教団・東京神学大学訪問、大阪教会の復活節礼拝での説教等をされた。そして関西学院を訪問して、スケジュールは修了した。

最後に福岡に40年ぶりに訪れ、当時の元青年たちと再会され、当時住んでいた名島を訪ねられ、福岡国際空港より無事帰国の途につかれた。どの地

においても、多くの方がデイス牧師夫妻を慕い、駆け付けた。これもデイス牧師夫妻の人の柄のなせる業と共に主の祝福であろうと感謝した。

